

平成 22 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

広島大学 社会連携・情報政策室
図書学術情報普及グループ
和田 由季

このたび、平成 22 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、英国の大学図書館を訪問し調査研究を行ったので以下のとおり報告する。なお、本調査研究は、鳥取大学図書館津村光洋氏と共同で行った。

1. 訪問期間

平成 22 年 11 月 29 日（月）～12 月 7 日（火）

2. 訪問先 / 担当者

- (1) Glasgow Caledonian University / Ms. Sonya Campbell
- (2) University of Sheffield / Mrs. Gill Goddard, Mr. Martin Lewis
- (3) Oxford University Bodleian Library
- (4) British Library / Mr. Hamish Todd

3. 調査研究内容

最近 5 年以内にオープンしたインフォメーション・コモンズを持つ英国の大学図書館 2 館を訪問し、それらの施設・サービスについて調査を行った。それと合わせて、オックスフォード大学ボードリアン図書館と、ブリティッシュ・ライブラリーの施設見学を行った。

4. 調査研究の成果

グラスゴー・カレドニアン大学とシェフィールド大学は、いずれも 5～6 階建ての独立した大規模なインフォメーション・コモンズを持っている。ともに開設後も学生の利用状況や要望をフィードバックして継続的に環境の改善に努めているのが印象的だった。また、チュートリアルやライティング・サービスなど、学生への人的支援に力を入れる北米等のラーニング・コモンズとは異なり、今回見学した 2 館は、学生への快適な学習スペースの提供という面に徹底的にこだわって大きな成果をあげていた。

ボードリアン図書館では英国ならではの歴史的な図書館を見学できた。また、ブリティッシュ・ライブラリーは日本の図書館員や研究者にとって非常に重要な図書館であるので、実際に利用登録手続きをしたり施設を見学した経験を今後の業務で大いに役立ててゆきたい。また、意外にも訪問した 2 館のようなインフォメーション・コモンズに類する閲覧施設を持っており、今回の訪問調査を締めくくるにふさわしい施設であった。